

微生物バイテクコース 松本市長を訪問

昨年12月20日(火)に微生物バイオテクノロジーコースの3年生4名、1年生2名が松本市の臥雲義尚市長を訪問し、現在取り組んでいる下水処理汚泥の農業利用に関する研究について報告しました。当日は臥雲市長のほか、岩田下水道課長、長谷川農政課長など、松本市の下水道関係、農政関係の方々にもご出席いただき、本校の研究実績を紹介させていただきました。

この研究は4年前より取り組んでいるもので、私たちの生活の中で排出されている下水処理汚泥を肥料の代替品として利用する可能性を探るため、安曇野市の下水処理場「アクアピア安曇野」より汚泥を提供いただき、研究を進めています。現在までに肥料の代替品として十分に利用できるという研究結果を得ています（研究報告参照）。

松本市では、市内の下水処理施設から年間10,000トンの汚泥が排出されており、多額な費用が掛かっているそうです。市長はじめ松本市の皆様からは、今回の提言を受け、市政に活かしてゆきたいという前向きなお話をいただきました。汚泥の処分に多額の費用やエネルギーがかかっていることや、肥料の高騰、肥料不足が心配されている現状を考えると、汚泥の農業利用は、すぐにでも実現すべき事項だと考えています。このような中、私たちの取り組みが紹介できたことは、大変ありがたく、これを機会に今後は実用的な研究を進めたいと考えています。

